http://commonf.net　E-Mail:info@commonf.net

茅風

— Breeze from the field of thatch-grass —

09年12月23日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信29号

（茅刈り講習会の集合写真）

□8月～12月の活動報告　（事務局　）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
◆生き物調べとフットパス地図づくりに参加して（渡辺優子）・・ 2
◆青木沢峠のフットパス地図づくり（海老沢秀夫）・・・・・・・・・・・ 3
◆さらちゃんが描いた茅ボッチの絵（さら）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
■特集：第5回講座「コモンズ村ふじわら」＆
日・中・韓環境ジャーナリスト・NGO交流会・・・・・・・・・4
○若手三羽烏の感じたススキ草原（早稲田環境塾石原・関谷・松木）
○上ノ原入会いの森での茅刈りを通して（東北大・古澤早耶）
○環境分野に携わる　企業人として感じたこと（丸山純一、嶋誠治）
○講座「コモンズ村ふじわら」に参加して（東京財団・吉原祥子）
○志高き人々が集う場所（環境ジャーナリスト・芦崎　治）
▲第3回「東京学習会」 レポート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
◆新規会員＆「会員・会友」便り　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
○68歳、草原デビューの記（勢井峯生）
○新連載『古民家再生奮闘記』①（北山育人）
◆編集後記～塾長のつぶやき～　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
□第7回講座「コモンズ村・ふじわら」のご案内　・・・・・・・・・・・・10

■　8月～12月の活動報告　事務局

○8月1日：「ぼんぼりの会」のボサ刈り活動に武者修行参加（草野、清水）

○8月21日～23日：藤原集落の皆さま31戸に「茅風」28号を訪問配達（北山、清水）。区民際に初参加、マラソン大会ならびに花火大会も見学、地元・町役場の皆さんと交流。

○9月19日～20日：第4回「講座コモンズ村・ふじわら－生き物調べと芦ノ田峠のフットパス地図づくり」。参加20名で、念願叶い完成した新しい橋の渡り初め。一同、感動！（右下写真ご参照）　親男さん、ご案内の労ありがとうございました。
20日夜は民宿「関が原」に、久さん、三郎さん、惣一郎さん、萬枝さん、親男さん、大竹さん、北山さんに参集いただき、日・中・韓環境ジャーナリスト・NGO交流会の事前説明と協力方お願い。

○9月25日：（株）トビムシの竹本代表、牧プロデューサーと藤原の地域資源を生かした活性化策につき情報・意見交換（海老沢、清水）

○9月26日～28日：第8回「全国草原サミット・シンポジウム」。草原を核とした豊かな里づくり－多様な人と生き物が集う新田園空、というテーマのもと北広島町で開催。当塾の浅川、海老沢、川端、草野、清水の他、みなかみ町役場から金子さん、同商工会から北山さんも参加、全国の仲間と体験交流、互いに学びあうよい機会となった。

○10月12日：NHK（おはよう日本）より当塾の生物多様保全に関わる取り組みにつき取材あって対応（清水）

○10月17日：宝台樹民宿組合主催「秋のみなかみ健康ハイキング」。フットパスとして再生・整備してきた青木沢峠がコースに選定されたと聞き及び、勇んでボランタリーガイドとしてはせ参じる。試作段階のフットパス地図を使いながらご案内、大好評であった。参加者は50人余で、リピーターの方々が多かった。（北山、清水）

○10月24日～25日：第5回講座「コモンズ村・ふじわら－茅刈りと生き物調べ」開催と「日・中・韓環境ジャーナリスト・NGO交流会」の受け入れ。好天に恵まれ、2日日間で延べ134人の参加。中国、韓国ならびに日本の環境ジャーナリスト、NGOリーダーに加え、早稲田環境塾生、日大生など若者グループ、研究者、企業人、さらに地元、町役場、茅葺き業者をふくむ様々なセクターの人々が集い、入り会った。正に、利根川上下流で支える「現代版入会い」の様相を呈する画期的な集いとなった。茅刈り講習会の「修了書」交付、48人。刈り取ったカヤの合計は280束で、全量を地元諏訪神社の茅葺き屋根修復用に寄贈する事とした。茅刈り指導や運営を支えていただいた地元関係者ならびに町役場の皆さま方、そしてパネリストをお引き受けいただいた親男さん、大野さん、町田さん、笹岡顧問、皆さま大変お世話になりました、ありがとうございました。（参加者の感想、コメントなど後記・特集ご参照）

○11月14日～15日：第 6 回講座「コモンズ村・ふじわら―山の口終いと茅の運び出し―」開催。初日は小雨模様だったが、午後の晴れ間に「山の口終い」行事。参加者 15 名が地元の皆さん共々、一年の恵みと無事を十二神様に感謝。町田社長、お神酒や幣束一式お世話さまでした。萬枝さん、しとぎ（米の粉で作る長い卵形の餅）をわざわざご持参いただきありがとうございました。2 日目、快晴に恵まれ全員で茅ボッチの運び出しに精を出す。全部は終わらなかったが、今年最後の活動日によい汗をかかせてもらった。
○11月16日：就任直後の岸良昌・みなかみ町長を訪問。塾のこれまでの活動報告と来年度以降の計画・課題につき説明、従前同様のご支援を依頼。併せて、「日本一の水源の町」を目指して頑張るよう激励！（草野、北山、清水）
○11月19日：「上ノ原の自然・文化・環境資源を持続的に利用・管理する仕組みづくり」の検討会。於いて、東京事務所。（浅川、海老沢、岡田、草野、清水）
○11月20日：早稲田環境塾の若手トリオ（石原、関谷、松木の諸兄）と懇談。『森林塾青水の学生部を作ろう！　ストローベイル・ハウスも建てましょう』など威勢のよい発言が飛び出し、大いに盛り上がる。（清水）
○11月22日：「東京学習会」の3回目。於いて、中央区立女性センター。川端幹事の講師（→稲さん）・テーマ選定（→「木の文化と神道」）が当たり、過去最高 15 人の参加、しかも半分弱が一般参加の方々でした。（´―`）
○12 月 2 日：日本農業新聞・金記者からの取材対応。（清水）
○12 月 8 日：「上ノ原の自然・文化・環境資源を持続的に管理・利用する仕組みづくり」の第 2 回検討会。於いて、東京事務所（浅川、海老沢、草野、清水）
○12 月 16 日：（株）トビムシ・牧プロデューサーと打合せ。藤原集落の自然・文化資源を活用した地域活性化策につき、最新情報・意見交換（北山、清水）
○12 月18日：みなかみ町教育委員会に牧野・新教育長を訪問。上ノ原のフイールドや古道・フットパスを地域の児童の自然ふれあい学習や教育旅行の場としていただけるよう説明、前向きの意見交換が出来た。（北山、清水）

◆生き物調べとフットパス地図づくりに参加して

渡辺優子

お母さま（渡辺美智江さん・会員）とご一緒に参加された渡辺優子さんに、9月 19 日、20 日に開催された講座「コモンズ村・ふじわら」のご感想をおよせいただきました。（編集子）

9月 19、20 日の「コモンズ村・ふじわら」第4回生き物調べと芦の田峠のフットパス地図づくりに参加させていただきました。

森林塾の会員である母から活動の様子を少しは聞いていましたが、自分にはほとんど知識は無く、生き物調べという本格的な調査の足手まといになってしまうのではと心配でしたが、思わず現地にて記録係を申し出てしまい、それが良かったのかどうか……たくさんの秋の植物の名前に触れることができました。調査にご迷惑をお掛けしていないことを祈るばかりです。

初秋の上ノ原では、ノコンギクの花の薄紫と黄の色がやはりとても印象深かったです。ヤマブドウもよく実っていました。茅場には適度な野草も必要との話をお聞きし、雑草だからと絶やしてしまうばかりではないお考えに、とても惹かれました。肝心のススキは、今夏の日照不足の影響か丈があまり高くなっていないとのことでした。これからでも良い天気が続き、秋風にそよぐみごとなススキ草原となることを願います。

芦の田越え古道の橋を渡り崩れたお社を過ぎた先の光景には、初めての私でも驚きました。長い年月をかけて育った木が伐採されて積まれていて、青い空の輝きが恨めしくなるほどの広い空間が峠にありました。

また、里山の風景もとても素敵で、まるで箱庭のような印象を持ちました。

林や野草の生い茂る中を掻き分けて歩く経験はなかなかできるものではない時世となり、参加してこんな遊びを夢中でしていた子供のころを思い出しました。参加者の方々には、そんな優しいお気持ちをお持ちの方が多いのではないでしょうか。

今回の母の参加は久しぶりだったのですが皆さまから暖かく迎えていただき、大変うれしく、またお世話になりました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

母が患い一人での参加が難しかったため、娘の私が同行することになりました。私の知らなかった母の様子をお聞きすることもでき、私にとって、また母にとっても感慨深い体験になりました。

母の希望と体調を見ながら、またおじゃまさせていただくかもしれません。ありがとうございました。

ススキ野の　青きノコンと　共にあり
ハンショウ摘みし　母の笑顔と
（ご笑納ください）

◆青木沢峠のフットパス地図づくり（中間報告）

今年度は再生した古道を活用すべく、フットパス地図づくりに取組んでいます。完成はまだまだですが、一番進んでいる青木沢峠の地図のイメージ段階のものを以下、中間報告します。皆さんのアイデア、ご意見をいただきながらより良いものに仕上げていきたいと考えています。よろしくお願いします。（海老沢秀夫）

◆さらちゃんが描いた茅ボッチの絵　　さら

上ノ原が大好きでススキの精のようなさらちゃん。今年も、お母さんと一緒に茅刈りシーズンに来てくれました。さらちゃんの描いたススキ草原の世界をごらんください。（編集子）

■ 特集：第5回「講座コモンズ村・ふじわら」＆日・中・韓環境ジャーナリスト・NGO 交流会

・10 月 24 日～25 日、第5回講座「コモンズ村・ふじわら」開催にあわせ、「暮らしの現場から自然との共生を考える」をテーマに掲題の交流会＆シンポジウムが宝台樹ツインビラを会場に開催されました。
・主催「日本環境ジャーナリストの会」に当塾と早稲田環境塾（原剛塾長・当塾最高顧問）が協働し、地元ならびにみなかみ町役場の皆さんのご協力をいただきながら、中国、韓国、日本の第一線で活躍する環境ジャーナリストとNGO の代表が、上ノ原のフイールドで我々と一緒に茅刈りや生き物調べを体験学習しました。それをふまえて生物多様性とは何か、その報道のあり方はどうあるべきか、などをシンポジウムの場で共に意見交換しました。
・以下は、参加された各層の方々にそれぞれの視点からお寄せいただいたご感想/コメントです。極めて示唆に富む内容です。是非、ご一読下さい。（編集子）

◆早稲田環境塾若手三羽烏の感じたススキ草原

石原光則、関谷　智、松木省吾

早稲田環境塾のヤング・トリオが参加してくれました。三者三様の感性あふれるススキ草原印象記です。（編集子）

石原光訓

見渡す限り黄金色の萱が繁る草原。秋薫る美しい紅葉。現代版入会のフィールドはとても美しい。身の丈を越える萱に対峙し、手鎌一本で挑む。町田茂先生の指導の下、貴重な体験をさせていただいた。見よう見まねで、鎌を振るう。岩手の山奥で大鎌を駆使して下刈りを行うのを常としている私にとっても、初めての手鎌はなかなか思うようには行かぬものであった。萱を掻き分けて頭から萱に飛び込み、適当な量を掴み、小刻みに鎌を振るう。頭でっかちになってしまいがちな社会において、文字通り頭から入る仕事に、感銘を受けた。都市において人は支えあわなくても生きていけるつもりになってしまった。けれども、ゴルフ場とスキーコースに囲まれながら取り残された美しい自然の中で、飲水思源に思いを馳せた。

関谷　智

生物多様性を感じるには、水上のすすき野原で耳を澄ませばいい。すすきの穂の優しい音、鳴き虫の営みや、落ち葉が枝から離れ豊穣な大地に流れる清水に運ばれる音。野原全体が呼吸し、私を包み込んでくれる。まさに命のにぎわいがそこにある。太古から日本人の血潮に流れるであろう何かに気づかせてくれる聖地が水上である。

松木省吾

私が水上に赴く意味は何であったのか。私は岡山県の高梁川という清流の水源涵養林を保全する活動を行っている。しかし、川の国を自負する埼玉県の県民として利根川を知らずして川を語っている自分に浅はかさを感じこの度水上の源流に赴いた。そして水上で学んだことは、水上に赴く際の大義名分の必要性でなく、ただ水上にある自然・文化・人間の三つの環境が織り成す美しさを五感で感じてくることの意味であった。水上まで足をのばす意味は何か。その答えは、銀色に広がったすすきとその中に点在する黄色く色づいた白樺。その中で囁き合う生き物の息吹。茅刈りに集まる方々の繋がりと今も続く茅葺の文化。かかあ天下のもと作られる旨い山菜やこんにゃく料理。これらを感じることが一番説得力がある。何故なら、それらを心底大切にしたいと想えるからである。そしてまたふと足をのばしたくなる。その結果、川の上流と下流、お互いを想い合い川は美しく保たれてゆくのではないか。

◆上ノ原入会いの森での茅刈りを通して　古澤早耶

環境ジャーナリスト志望の東北大学農学部3年生の古澤さん。遠路はるばるご参加いただきました。茅刈り体験から何を学びどう考えられたのでしょうか。（編集子）

東京から約 4 時間、バスに揺られて着いた地は、以前温泉街で栄えた小さな町だった。現在は、ダム観光、ゴルフ場、スキー場も展開されているらしいが、休日なのに人影は少なく、立ち並ぶ民宿はどこか寂しげであった。しかし、そんな町の奥にある上ノ原入会の森はどんな観光事業よりも惹きつける美しい紅葉とススキ原っぱの景色が広がっていた。どちらかというと都会育ちである自分でも、なぜか懐かしい景色だと感じたのは、日本本来の姿であるからだろうか。現地の人々に教えられつつ茅刈りをする。協力してボッチを一つ作り上げることで、初めて会った人々との会話もはずみ、達成感を

共有できた。私たちが泊った民宿のおじいさんが昔、使っていた道具を見せてくれた。自分で編んだという藁草履は暖かく、他の道具も雪の中山を登って木を切った職人ならではの知恵が盛り込まれていて深く感動した。次の日に昔作られた茅葺屋根の家がそのまま保存してある博物館へ行った。厚く編みこまれた茅葺屋根は歴史の重みを感じた。近くの山を散策したときに、山ブドウをみつけた。それは、想像以上に甘く口の中で溶けていった。一緒に歩いていた人はこのブドウでブドウ酒を作ると言っていた。自然の恵みに感謝し、共に生きるとはこういうことなのだろう。その後、ススキ草原で食べたおにぎりは普段の何倍もおいしかった。

近代化した日本に生まれた私だが、このように自然の中で人々とともに作業し、触れ合う中で成長する文化が忘れられていると思う。この町は、少子高齢化が進み、観光地化するも寂しさが漂うが、すばらしい自然とそこで育まれた文化がある。近代化が進むうえで社会の変化の流れを止めるのは不可能かもしれないが、その傍らで、このような昔ありきの町の文化とその周りの自然生態系を保全していく重要性を感じた。

今後の展望について

みなかみ町は環境保護、生物多様性が重要視されていく中での一つの模範的取り組みとなると思う。それを踏まえたうえで今、これからどのような取り組みへ展開していくかが大きな課題となっているのだろう。茅の使い道はどうするか。どのように知名度を高めていくか。私の意見としては、それはなにをビジョンとするかによると思う。例えば、ススキ高原の有用性を強調したいのであれば、市場で需要を得ることができる商品を提案する必要がある。または、この町の活性化を目指したいのであれば、町全体でこのプロジェクトに取り組めるといいと思う。現在の景観はまだ温泉、スキー、ゴルフ場などの観光地区にしか見えないので、町がもっと茅葺屋根の普及につとめるなどして、自然と共生している集落を形成し、そこへ自然学習を導入し広めることで、町の観光事業となり活性化にもつながると思うし、生態系保護、入会文化を、体験をとおして普及できると思う。

私も、まだまだ未熟で具体的な策を提案できませんが、今後の活動に期待したいと思います。今回は体験を通してさまざまなことを学ばせていただきありがとうございました。

◆環境分野に携わる企業人として感じたこと

丸山純一 ・ 嶋 誠治

日本を代表する業界最大手企業で環境部門の要職にあるお二人。2日間のフールド体験や地元の皆さんとの出会いに、大変新鮮なお気づきがあったようです。（編集子）

嶋と丸山は、偶然のことですが、二人とも環境関連の仕事を始めてからまだ 2 年余になったばかりです。それまでは、それぞれの会社で入社以来技術者として研究・開発部門あるいは技術部門で働いてきましたが、環境のことは全くの素人でした。それが原先生の知己を得て早稲田環境塾に通うことにより日本の環境思想を学び、徐々にそのルーツへと心が惹かれるようになりました。今回、清水塾長を始めとする森林塾の皆様のお蔭で、普段生活に使用している水道水の水源の1つを訪れることが出来たことには大変感謝いたしております。

丸山は十郎太の泉の水を家族にも飲ませてやろうと思い、ペットボトルに詰めて持ち帰りました。翌朝コーヒーを沸かしたところ、いつもと全く違うまろやかでコクのある味わいとなりびっくりしました。これなら喫茶店の方が遠くからわざわざ水を汲みに来るのも頷くことができるというものです。私の研究者としての本職は食品分析なのですが、水の分析というのは実は本当に厄介な代物で、含まれるイオンの分析結果だけで水の味や効能を説明することはまずもって出来ないのが現状です。しかし、ここまで美味しいコーヒーを楽しむことが出来るのは一体何故なのだろうか、逆に考えると、どうして普段飲んでいる水ではこの美味しさが失われてしまっているのでしょう。人間は毎日経験していることには慣れてしまい、感覚も麻痺してくると言いますが、本来あるべき姿を時には思い出すことも必要ではないかと思います。あるべき姿を示す社会の方向性と到達する指標を明らかにすることが持続可能な社会を構築する基盤となるのではないかとあらためて感じました。

嶋にとっては、カヤ狩りの先生である三郎さんに交流会の場で「また来て下さい」といわれたことが頭から離れません。地域に根付き、生活を行っている方の中に異物のごとくは入り込んだ私には最高の言葉でした。

人を迎えることを生業としていない方が異物を同化していく力。決して気負うわけでなく、自分たちの暮らしをさらけ出していくことの力を十分に感じさせて頂きました。ここまで地元の方と密着されている森林塾の方には感謝、感謝です。お言葉に甘えて野焼きの際は是非よろしく御願いします。

紅葉の季節を眼で楽しむことでも自然の大切さを十分に理解することができると思いますが、水源の地での萱刈りや生態調査など実際に自然に触れることは五感に自然のあるべき姿の指標として感じることに繋がることでしょう。一方、このような場所は持続的な生活を営む場としては非常に厳しい状況になりつつあります。これはまた、国土の保全と自然環境の維持、インフラの整備、そのための国民の費用負担について考えさせられるものでした。

◆講座「コモンズ村・ふじわら」に参加して　吉原祥子

吉原さんは日本を代表する政策シンクタンクの研究員。元・入会山での活動に参加されて、どんな視点でどんな問題意識をお持ちになったのでしょうか。（編集子）

私は現在、政策シンクタンクで森林・林業に関する政策研究に携わっている。普段はもっぱら屋内で仕事をしているが、ぜひフィールドに出て暮らしと自然の関わりを少しでも実体験してみたいと思い、今回、第5回講座に参加させて頂いた。

講座では、茅刈りや毎木調査といった活動を実際に体験するにあたって、森林塾青水の方々から活動の背景や趣旨についてとてもわかりやすい説明があり、大変勉強になった。その上で、茅刈りの現場や交流会で地元の方々から直接ご指導やお話しを頂けたことで、「茅を刈る」という人間の行為が自然の植生とこれほど関係しているのだということを、頭と身体で考えることができた。「茅刈り文化」というのは、確かに日本人の暮らしのサイクルのひとつなのだ。また、毎木調査では、4～5 名1ｸﾞﾙｰﾌﾟとなって 10m四方に区切った斜面を調査したが、たった 10m斜面を上るだけで、木の種類や生えている本数に顕著な変化があることは驚きだった。

現在日本では、長引く林業低迷や後継者不足などによって各地で植林放棄地などの荒地が拡大しており、人の目や手が行き届かなくなりつつある山林をどう守るかが喫緊の課題だ。森林塾青水では、上ノ原を「現代版入会地」として守る取組みをされているが、日本の自然を守るには、国による大きな政策と、こうしたコモンズのような一人ひとりの取組みとが、両輪として機能することが重要だ。

国の政策が「ルール」だとしたら、こうした入会地での約束事は、人々の良識や暮らしの知恵といった「マナー」によるところが大きいといえる。必要なものはなんでもお金で買うようになり、生活のために山や草原に手を入れるということをしなくなったことで、我々は自然との付き合い方のマナーを学ぶ機会をほとんど失くしてしまった。青水の活動は、「現代版入会地」という新しいマナーを作っていく活動であり、日本の荒廃する山里を守っていくために極めて重要だと思う。今回お会いした参加者の方々も、それぞれに暮らしと自然の関わりについて考え実践されており、そうした方々のお話しからも、一人ひとりが行動することの大切さを強く感じた。

「とんち」の心づくしのお料理も、入会地で頂いた食事もお茶も、街の中では味わえないおいしさだった。自然の中で共同作業をして見えてくる人それぞれの魅力もある。男性は、率先して草を刈ったりテントを設営するなど、より男性らしく見え、女性は、暖かい汁をよそってくれるなど、より女性らしく見えたのは不思議であった。もちろん分担は臨機応変なものだが、そういう発見も、実際に行動することで得られる楽しさのひとつだ。今回学んだ実践の大切さや楽しさを忘れずに、森林・林業に関する研究を続けていきたいと思った二日間だった。

◆志高き人々が集う場所　芦崎　治

実力派環境ジャーナリストにして大ベストセラー『ネトゲ廃人』の著者。芦崎さんの目に映った上ノ原、そして、そこで感じられたことは何だったのでしょう。（編集子）

群馬県みなかみ町の藤原の茅刈りの現場は、想像以上にきもちのいい草地だった。あらためて清水英毅塾長の慧眼に接した思いをした。この一年、ひとびとが集まる場所とは、どんなところなのかを考えさせられてきた。

昨年十一月に、早稲田環境塾のメンバーとして有

機農業の先駆的地域である山形県東置賜郡高畠町を訪ねた。米沢盆地の北東に位置する高畠町は、ほどよい高さの山々に抱かれている。静謐な山並からおりてくる霧と空気、そしてそこに志の高い農を営むひとびとが暮らしている。「何度も、来たくなる場所だ」と思った。

ことし五月に、『ナショナルジオグラフィック日本版』の仕事で、千葉県鴨川市で農を営む自称半農半歌手のＹａｅさん（加藤登紀子さんの次女）を取材した。

「大地を守る会」を創設した父の故藤本敏夫氏が、鴨川自然王国として切りひらいた土地なのだが、ここに首都圏の若者たちが田植えや田の草取りに集まってくる。大山千枚田からさらに山の上にある里地なのだが、気持ちのいい風がふいていた。「土地の磁場がいい」と感じた。高畠町にしろ、鴨川自然王国にしろ、運動の拠点になる場所は、ここちよい気が流れている。ただ、それだけではひとびとは集まらない。気のいい場所に、志のある人と思想がないと運動の拠点にならないのだ。茅刈りの草地を現場にもつ「森林塾 青水」に、その可能性があると思った。

さて、一泊二日の「日中韓 環境ＮＧＯ・ジャーナリスト交流の集い」に話題をうつそう。試みが面白かった。しかし、欲張り過ぎてシンポジウムが全体に窮屈に感じた。

第一部では、せっかく中国、韓国からゲストを招いたのだから、彼らの報告に時間を割けてあげたかった。彼らと「森林塾青水」のメンバーとの議論を見たかった。また彼らと藤原のひとびととの質疑応答の時間がもっとあっても良かったのではないだろか。

中国の鄧儀さんと、きびしい寒村の生活に耐えてきた藤原の農家のひとびととのやりとりがあったら、「入会い」について深い視点が発掘できたかもしれない。また、第二部では、下流代表として大野一敏さんがたった三分の持ち時間で登場した。船橋からお呼びした意味があっただろうか。この画期的なシンポジウムにいたるまで関係者各位は尽力されたと思う。しかし、友、遠方より来たる。友を大切にしていたか？

主催側の日本環境ジャーナリストの会の一員として反省している。

◆「東京学習会」～こんなことやってます

・今年度の新企画「東京学習会」。藤原の活動には参加しにくいけど東京でなら、という会員・会友むけに八丁堀の「中央区女性センター」を会場に、身近なテーマを選んで学びあう機会を設けました。

・今年は3回開催。1回目（5月）のテーマは「森林塾青水の歩み」で参加 11 名、2回目（7月）は「生き物調べ～ここまで来ました」で参加 14 名、そして3回目（11 月）は「木の文化と神道」で参加 15 名でした。延べ、40 人の参加になりました。

・今号では、3 回目の講師・稲さんが当日使われたレジュメを以下ご紹介します。（編集子）

はじめに
「木の文化と神道」について、思いつくままに述べてみます
神道とは何か
神道の起源と神社の起源
上代・古代　中世　近世　近代　現代
神話に見る草木の神々
『古事記』
木の神　久久能智神(ククノチノカミ)
野の神　鹿屋野比賣神(カヤヌヒメノカミ)
『日本書紀』
木の神　木祖句句廻馳(キノオヤ　ククノチ)
野の神　草祖草野姫(クサノオヤ　カヤヌヒメ)
巨樹と木霊
巨樹の役割
伐採と建築の儀礼
神宮式年遷宮
20年毎に社殿と神宝・装束を新調
建築儀礼は用材を伐採する山の神祭りから始まる
鳥総立(トブサタテ)と上棟祭(ジョウトウサイ)
鎮魂の文化
慰霊と供養

◆新規会員のご紹介＆「会員・会友」便り

◆68 歳、草原デビューの記　　勢井峯生

新入会員の勢井さん。長かったお勤めを終わられて、心のふるさとを求めてのご入会。その勢井さん、68 歳にして草原デビューの記です。（編集子）

年をとった新入社員ですが、当会への新規メンバーとして何か一言挨拶をという浅川さんの要請に基づき、以下挨拶をさせて頂きます。

サラリーマンとしての略歴

1964 年(東京オリンピック)に日立製作所に入社し、以来33年間家電製品の海外営業に従事。この間3度、8年間は海外勤務。その後、1996 年に日亜化学に転職し、12 年間に亙り発光ダイオード(LED)の国内外での営業に携わってきました。

昨今話題になっているLEDの照明用途として、従来の白熱灯、蛍光灯の代替が世界規模で進められています。論拠としては、大幅な消費電力の削減、CO2 の排出減、メンテナンスコストの削減(LED のライフ 40,000 時間 電球の40倍)等です。以上、LED の PR になりましたが、業務上環境問題にも関係するようになり、今回の小職の森林塾への参加のきっかけにもなりました。もう1点は、日亜化学を3月一杯でリタイヤし、4月よりはフリーの身になった事もあり、何か社会との繋がりがあった方が良いのかなという個人的事情もあります。

尚、清水塾長とは、高校(徳島)大学(大阪)が同窓というやや珍しい縁があります。

森林塾青水活動へ参加の感想

清水塾長、川端さん、海老沢さん、浅川さん、林親男さん他各位のご指導に感謝します。特に清水さんには、8月4－6日にアチコチ事前に案内頂き、ある程度予備知識が得られました。感謝します。

1) 既入会の皆様の環境意識と行動

海老沢さんを中心に動植物の定点観測等地道にデーター収集され、頭が下がります。(虫とか草木の名前を覚えるのは不得手ではないのかと妻には冷やかされています。)

2) 古道の整備と地図作り

フットパス作りも地図作りも、より多くの人を呼び込む為にも必要かと思います。

3) 地場関係者のイニシャテイブ

ひとつには、主産業の農林業での収入拡大、効率アップ、新種の導入等が必要なのかと思いますが、一方で販売面でも産地直送とか今回のように、花豆とか茗荷の現地即販(旬な植物)等もひとつの方法。

＊温泉街との連携　　村の行事的な催しの PR

＊子供への環境教育継続

＊森林保全の効果の PR ： 県、国等の環境関連部門

＊リピーターを呼び込むには、何か得をしたとか、おいしかったとか、楽しかったとかの印象を持たせる事が必要でしょうね。

以上、偉そうな事を言いましたが、素人の思いつきです。悪しからず。

◆新規会員のご紹介

・及川民司さま(正会員)
・ピーアークホールデイングスさま(協賛会員)

ご入会ありがとうございした。歓迎 (´―`)

◆古民家再生奮闘記　　北山郁人

北山ファミリーが今年の4月、藤原に移住しました。 築百年を超える茅葺き古民家です。昨年の 8 月から始まった移住の準備。それは、創造をはるかに超える大変な仕事になりました。題して『古民家再生奮闘記』!(編集子)

「スローライフ is ハードライフ」

昨年8月、群馬県みなかみ町で築100年以上の古い茅葺屋根の家を借りました。しばらく空き家だったこともあり痛みも激しく、修復作業は山とありました。毎月少しづつ通って直し始め、今年 4 月に家族で移住。日々奮闘しながら生活しています。家族は妻と4歳になるわんぱく息子、1 歳半のおてんば娘。子供たちは時に父を手伝い(?)ながら、素晴らしい自然環境の中、元気にたくましく成長しています。

トタンが被せてはあるものの茅が屋根から顔を見せ、家の前には湧水から小川が流れ、緩やかな段々畑に囲まれ、裏には落葉樹の森。それは通りすがりに初めて見たときから「いいなぁ」と感じていた家でした。古民家にこだわったのは、日本人が長い間に真に自然と共生しながら培ってきた技術や知恵、歴史が凝縮されているからです。古い柱や煤けた天井。2 階にあがれば真っ黒の茅屋根が見え、妻もすっかりこの家を気に入り、移住を決意。北山家の古民家再生大改修への道が動き出しました。

環境にできるだけ負荷をかけない生活を・・・。その思いで以前の家では、薪ストーブを利用する、山の水を屋根から散水し夏場の冷却にする、室内は全て漆喰・・・というようなことをしていました。さて、この古民家では何が出来るか、何をしようか・・・妻と二人でイメージを膨らませました。リフォームされていて一見きれいな床。ところが、一部白い物体がはみ出している。これはなんだ?!と床を剥いで見ると・・・なんと!床下はきのこ?のような菌類の巣窟となっていました。ここから予想を超える大改修が始まりました。(続く)

□　編集後記　～塾長のつぶやき　～

○9月25日、(株)トビムシの竹本社長、牧プロデューサーと会食。同社が企画・プロデュースしている西粟倉村(岡山県)の地域資源活用プロジェクトを藤原でも展開することを検討してみたいとの由。当方の考え方や現状、今後の課題などお話した。西粟倉での取り組みは各方面から注目され報道もされている。どんな提案が出てくるのか、地域の活性化に役立ち地元の皆さんが喜んでくれる内容であることを期待している。

○10月17日、「秋のみなかみ健康ハイキング」のボランテイア・ガイドで紅葉の藤原を歩いた。主催の宝台樹民宿組合が今年は、青木沢峠を含むコースを選んでくれた。フットパスとして再生すべく地元の皆さんの力を借りながら整備し、地図づくりに取り組んできた峠道の一つだ。藤原好きの参加者 50 余人を案内しながら十二神様のことなど、親男さんや三郎さん、幸雄さん、惣一郎さんたちが教えてくれた峠道にまつわる昔話などさせていただいた。皆さん大いに楽しんでいただき、他の古道も歩いてみたいと言われ嬉しかった。フットパス地図づくり、少し急がねば・・・。

○古道再生/フットパスについては、他にも嬉しい話が飛び込んできた。首都圏の某旅行会社から、中高年むけの『花暦』という旅シリーズで上ノ原のススキ草原と木馬道(きんまみち)を歩きたい、という電話相談があった。「藤原ガイドマップ」を入手して目下、検討中の由。来年秋の計画とのことで、喜んでご案内したいとお応えしておいた。

○師走も半ばを過ぎた。今年は、他団体の総会や交流会の当地(藤原)開催受け入れに終始した感が強い。前半は、6月の全国草原再生ネットワーク「総会」と藤原案内/エクスカーション。そして後半は10月、日・中・韓環境ジャーナリス・NGO 交流会とシンポジウムの協働開催。慣れないことで、事前準備も当日の運営も大変難儀したが、 嬉しい事や学び、収穫も沢山あった。

－中国から来られた史さんは、東京に数日滞在した後に藤原にきて地元の皆さんと出合い、「今日こそ、この場で本当の日本人を見た」と感動。

－韓国代表の呂さんは「茅刈りをしながら、ふる里に戻ってきたような気がする」と言い、シンポジウムでは「(地域活性化の)本当の主人公は地域と共に生きていこうと思う住民だ」と熱く語ってくれた。

－この『茅風』に快く感想分をお寄せいただいた丸山さんは、十郎太の泉の水でコーヒーを沸かしてご家族と共に飲まれ、「ここまで美味しいコーヒーを楽しむことが出来るのは何故？」と思われたという。

－嶋さんは、三郎さんに交流会の場で「また来て下さい」といわれたことが頭を離れず「地域に根付き、生活をしている方の中に異物の如く入り込んだ私には最高の言葉だった。人を迎えることを生業としていない方が異物を同化していく力に感動した」と述べておられる。

○いずれも、藤原集落が有する貨幣価値では計り知れない自然・人間・文化環境という地域資源の無言の力を思わせる内容である。「藤原の茅刈りの現場は、想像以上に気持ちのいい草地だった」と語り、「高畠町にしろ、鴨川自然王国にしろ、運動の拠点になる場所は、心地よい気が流れている。ただ、それだけではひとびとは集まらない。気のいい場所に、志のある人と思想がないと運動の拠点にはならない。茅刈りの草地を現場にもつ森林塾青水に、その可能性がある」と思っていただいた芦崎さん。ご期待に沿えるようになるには何をどうするべきか。半ば嬉しいような、半ば身の引き締まるような思いである。

○上ノ原を含むこの貴重な地域資源をいかにして持続的に利用・管理していくのか。かつて集落の入会山だった時代には、地元の皆さんが必要に応じ利用し管理する自己完結的システムがあった。今日、地元にとって利用価値のなくなった草原や古道。『あとは野となれ山となれ』でほったらかしにしておいてよいのか。水源涵養はもとより、CO2 の吸収・固定、生物多様性や自然ふれあい・環境学習の場の提供や原風景の維持といった現代的必要性に鑑みて持続的に利用・管理されなければいけない。これがシンポジウムの結論。では、どんなその仕組みが用意されるべきなのか。地元だけでなく、この環境資源の恩恵にあずかる都市住民・企業・自治体がよってたかって皆で支える開放・協働型の利用・管理システムが必要なのでは。中山間地、とりわけ水源地域の資源を公益的財産(コモンズ)と位置づけ、流域の皆で支える参画協働型の“現代版入会い”もしくは“流域コモンズ”の構築である。

～孫の世代につなぐ～

○この仕組みづくりが下半期に残された課題。そんなことを考えながら11月の一夕、フイールドに足を運んでくれた早稲田環境塾の若手三羽烏と会食した。当塾のシルバーパワーで流域の企業や市民団体に活動参画を呼びかけるが、大学や学生のネットワークづくりにヤングパワーの力を借りたい、といった意味の話をしたところ、『森林塾青水の学生部をつくりましょう』という提案が飛び出した！アルコールの勢いも手伝ってか、『ストローベイル・ハウスも建てましょう』なんてことになってしまった。持続的利用・管理システムにとって、その担い手なかんずく若手継承者の育成・確保は絶対条件。この嬉しい提案、是非実現したいものだ。

草木の上にも神は宿れるを
　　八百万神といひしいにしえ　　佐太郎

(青)

■ 第7回講座「コモンズ村・ふじわら」　参加者募集案内

ススキ草原は人と生き物の入会地

参加者募集

講座「コモンズ村・ふじわら」２００９

第７回　カンジキで歩こう
雪の上ノ原

森林塾青水では、ススキ草原（茅場）や古道（フットパス）など、地域の自然・文化資源の再生と活用に取り組んでいます。この講座は、その実践プログラムです。６年目の今年は。これまでの経験と成果をふまえ、草原の持続的な利用と管理ができるよう、より良い仕組みや方法を検討しています。今回は０９年度の最終回。カンジキとスノーシューで、フイールドの上ノ原周辺を散策し、雪上の動物の足跡や糞など、生き物の痕跡調べを楽習します。郷土料理「ぼた」もお楽しみいただきます。　**参加者を募集します。**

■日　程　：　２月１３日（土）～１４日（日）
■集　合　：　初日の１０時２０分、ＪＲ上毛高原駅改札口
〈上越新幹線〉東京 8:52ー上野 8:58ー大宮 9:18ー高崎 9:52ー上毛高原駅 10:14
■参加費　：　１０，０００円（森林塾青水正会員は 9,000 円）
※宿泊費、食費（夕食・朝食・昼食）、保険代などを含みます。初日の昼食は各自持参して下さい。現地までの交通費は自己負担です
■宿　泊　：　ロッジ「樹林」　／群馬県みなかみ町藤原３６２８（０２７８-75-２０４０）
■服装など：　防寒具、オーバーズボンなど、雪上を歩くのに適した服装で。カンジキやスノーシューをお持ちの方はご持参下さい。ない方は塾でも準備しておきます。お子様ずれの方は、ソリをご持参されると楽しさ倍増です！　その他、水筒、カメラ、等
■申し込み・問い合わせ　森林塾青水事務局・コミュニティデザイン
東京都中央区湊１-２-３プロスペリテ八丁堀３０１【電話】０３-６２２８-３５０３
【ファクス】０３-６２２８-３５０４、【メール】info@commonf.net
■当日・緊急連絡先
清水携帯（０９０-３５７５-２２８３）／浅川（０９０－１７６４－９８６８）

参加申し込み　締切日１月 29 日

第１日目　２月１３日（土）

時刻	内　　容	備　　考
１０：２０ １１：３０	上毛高原駅集合 倉庫に立ち寄ってカンジキ、スノーシューを準備	
１２：００	昼食・休憩（弁当は各自ご持参下さい）	上ノ原又は遊山館
１３：００ １６：００	カンジキ、あるいはスノーシューでフイールドを散策。足跡、糞、巣、冬芽などの観察を*楽習*します 宿へ	海老沢指導員
１８：００	夕食・交流会～地元の皆さんと野焼きの打合せなど	「樹林」　惣一郎さん他

第２日目　２月１４日（日）

時刻	内　　容	備　　考
７：３０	朝食	
９：００ １１：３０	オプションで①雪堀り体験　②大幽洞窟トレッキング ③郷土料理「ぼた」づくり 悪天候の場合、①、②は中止します	遊山館 指導：惣一郎さん
１２：００ １４：００	昼食 解散→たにがわ４１６（１５：１９上毛高原駅発）	樹林：ボタです！

送信先	E-MAIL：info@ｃｏｍｍｏｎｆ.net ＦＡＸ：０３－６２２８－３５０４ コミュニティデザイン気付　森林塾青水事務局

第６回ﾌｨｰﾙﾄﾞｽﾀﾃﾞｨに （右記のどちらかに○印してください）	参加します	欠席します
お　名　前		
ご　住　所		
E-MAIL 連絡先		

下記に○印を付けてください

○印を付けてください	月　日	朝　食	昼　食	夕　食	宿泊	交通手段
	2月１３日(土)					自家用車 電　車 (上毛高原駅　・　水上駅)
	2月１４日(日)					

通信欄	